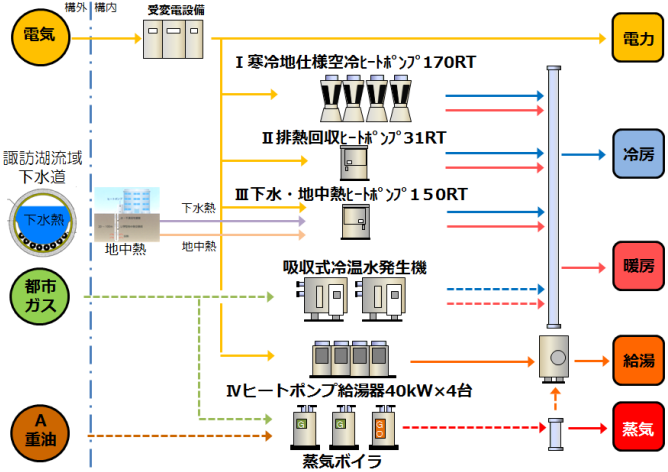
【事業名】地域災害拠点病院における複合再生可能エネルギー面的導入事業

■ 事業概要

主な事業者	(株)シーエナジー・諏訪赤十字病院・諏訪市
事業地	長野県諏訪市湖岸通り五丁目11番50号
施設名称	日本赤十字社　諏訪赤十字病院
延床（施工）面積	34,813m^2
主に利用する再・未利用エネルギー	地中熱、下水熱、空気熱、廃熱利用
主な導入設備	空気熱利用HP216RT（空調・給湯用） 地中・下水熱HP150RT　・廃熱利用HP30RT
事業期間（稼働予定）	2016年9月～2018年3月 （2018年4月稼働予定）
省エネ効果見込	省エネ量：270kL/年、省エネ率：50%



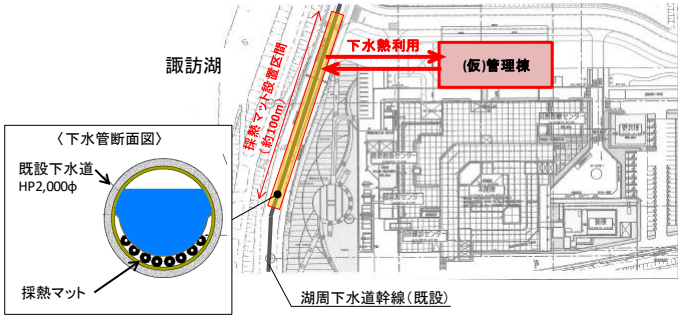
システムフロー

■ 事業の特徴

- ICTを活用し、建物とスマートエネルギーセンターを連携し、エネルギー需給を一括管理・最適制御するSENEMSを日本初で開発し、導入。
- 温泉地域での効率的な「地中熱」や、近隣７市町村（約590km^2）の排水が流れる「下水熱」、寒冷地でも運転可能な「空気熱」利用HPなど、諏訪市の地域特性に応じた再生可能エネルギーを面的に利用します。

■ 導入効果

- 化石燃料燃焼方式（吸収式冷温機・ボイラ）と比較して、55%の省CO_2削減を見込みます。
- 「下水管路」からの採熱は、特に寒冷地域でのビジネスモデルとして、地域全体への波及・普及が期待できる。



諏訪地域全体の排熱（下水熱）有効活用計画